

利用権設定申出書

提出日の記入

年 月 日

記入例

1. 各筆

整理番号	利用権の設定を受ける者(借り手)	〒123-4567 (TEL0930-32-2512) 住所 みやこ町勝山上田960番地	氏名及び名称 みやこ 太郎	同意印	㊟
	利用権を設定する者(貸し手)	〒800-9000 (TEL0930-42-0001) 住所 みやこ町犀川本庄1234-567	氏名及び名称 みやこ 花子	同意印	㊟
	利用権を設定する者以外の者で利用権を設定する土地につき所有権その他の使用収益権を有する者の住所及び氏名	〒 (TEL) 住所	氏名及び名称	同意印	

・下記の計画に同意します

利用権を設定する土地					設定する利用権							利用権設定等促進事業の実施により成立する利用権の設定等に係る法律関係	利用権を設定する土地の利用権を設定する者以外の権原者			新規・継続
大字	小字	地番	現況地目	面積 m ²	利用権の種類	内容	始期	終期	年数	一筆ごとの賃借	賃借の支払方法		住所	氏名又は名称	権原の種類	
勝山上田	〇〇	456	田	5,000	使用賃借 賃賃借	水田	令和4年 4月15日	令和13年 12月14日	10	反60kg	物納 現金		㊟		新規 継続	
犀川本庄	〇〇	789	畑	2,000	使用賃借 賃賃借	畑	令和4年 4月15日	令和13年 12月14日	10	反13,000円	物納 現金		㊟		新規 継続	
豊津	〇〇	10-11	田	1,000	使用賃借 賃賃借	畑	令和4年 4月15日	令和13年 12月14日	10		物納		㊟		新規 継続	
					賃賃借		令和	令和	年				㊟		新規 継続	
					使用賃借 賃賃借						現金		㊟		新規 継続	
					使用賃借 賃賃借						物納 現金		㊟		新規 継続	
					使用賃借 賃賃借		令和	令和	年		物納 現金		㊟		新規 継続	

台帳面積(畦畔を含む面積)を記入してください。

賃賃借
金品の授受がある場合
使用賃借
無償の場合

【始期日】
申請月の翌月以降の15日

【終期日】
設定期間の最終年の前年12月14日
(但し、11月申請分については
最終年の12月14日)

【お米の場合】
物納
【お金の場合】
現金

【賃賃借の場合】
賃借の内容を記入
【使用賃借の場合】
空欄のまま

2. 利用権設定等を受ける者の農業経営の状況等（借り手）

氏名又は名称		みやこ 太郎		年齢	47	農作業従事日数	105	日			
利用権の設定等を受ける者が現に耕作又は養畜の事業に供している面積			利用権の設定等を受ける者の主たる経営作物	利用権の設定等を受ける者の世帯員（構成員）の農作業従事及び雇用労働力の状況			利用権の設定等を受ける者の主な農機具及び家畜の保有状況				
農用地	田	10,000	m ²	世帯員（構成員）		農業従事者		農機具			
	畑	5,000		種類	数量						
採草放牧地				男	2	人	男	1	人	トラクター	1台
				女	1	人	女	1	人	コンバイン	1台

3. 共通事項

この農用地利用集積計画の定めるところにより設定される利用権は、1の各筆明細に定めるもののほか、次に定めるところによる。

(1) 借賃の支払猶予

利用権を設定する者（以下「甲」という。）は、利用権の設定を受ける者（以下「乙」という。）が災害その他やむを得ない事由のため、借賃の支払期限までに借賃の支払をすることができない場合には、相当と認められる期日までにその支払を猶予する。

(2) 解約に当たっての相手方の同意

甲及び乙は、1の各筆明細に定める利用権の存続期間の中途において解約しようとする場合は、相手方の同意を得るものとする。

(3) 転賃又は譲渡

乙はあらかじめみやこ町に協議した上、甲の承諾を得なければ利用権の目的物（以下、「目的物」）を転賃し、又は利用権を譲渡してはならない。

(4) 修繕及び改良

ア 甲は、乙の責めに帰すべき事由によらないで生じた目的物の損耗について、自らの費用と責任において修繕する。
ただし、緊急を要するときその他甲において修繕することができない場合で甲の同意があったときは、乙が修繕することができる。
この場合において乙が修繕の費用を支出したときは、甲に対してその償還を請求することができる。

イ 乙は、甲の同意を得て目的物の改良を行うことができる。ただし、その改良が軽微である場合には甲の同意を要しない。

(5) 租税公課の負担

ア 甲は、目的物に対する固定資産税その他の租税を負担する。
イ 乙は、目的物に係る農業災害補償法（昭和22年法律第185号）に基づく共済掛金及び賦課金を負担する。
ウ 目的物に係る土地改良区の賦課金については、甲及び乙が別途協議するところにより負担する。

(6) 目的物の返還

ア 利用権の存続期間が満了したときは、乙は、その満了の日から30日以内に、甲に対して目的物を原状に回復して返還する。
ただし、災害その他の不可抗力、修繕又は改良行為による形質の変更又は目的物の通常の利用によって生ずる形質の変更については、乙は、原状回復の義務を負わない。
イ 乙は、目的物の改良のために支出した有益費については、その返還時に増価額が現存している場合に限り、甲の選択に従い、その支出した額又は増価額（土地改良法（昭和24年法律第195号）に基づく土地改良事業により支出した有益費については、増価額）の償還を請求することができる。
ウ イにより有益費の償還請求があった場合において甲及び乙の間で有益費の額について協議が調わないときは、甲及び乙双方の申出に基づきみやこ町が認定した額を、その費やした金額又は増価額とする。
エ 乙は、イによる場合その他法令による権利の行使である場合を除き、目的物の返還に際し、名目のいかに問わず返還の代償を請求してはならない。

(7) 利用権に関する事項の変更の禁止

甲及び乙は、この農用地利用集積計画に定めるところにより設定される利用権に関する事項は変更しないものとする。
ただし、甲、乙、及び市町村が協議の上、真にやむを得ないと認められる場合は、この限りでない。

(8) 利用権取得者の責務

乙は、この農用地利用集積計画の定めるところに従い、目的物を効率的かつ適正に利用しなければならない。

(9) その他

この農用地利用集積計画の定めのない事項及び農用地利用集積計画に関し疑義が生じたときは、甲、乙及び市町村が協議して定める。